地元漁師が獲れたての鮮魚を卸値で販売

～ 金浦漁港朝市 ～

漁師さんとの会話も楽しみの一つ

６月17日、金浦漁港で、地元の漁師さんが水揚げした鮮魚を格安な価格で直売する金浦漁港朝市が開催されました。これは、地元の水産物の魚食普及と地産地消の推進を図ることを目的に地元の漁師さんたちが始めたもので、今回が３回目の開催。

午前７時の販売開始前から、開催を楽しみに集まった市民ら100人以上が長蛇の列を作り、開始とともに随所で大変な熱気。お目当ての甘エビ、カレイやスガヨなどを手に満足そうな様子が見られました。

日本百名山「鳥海山」を舞台としたレース

～第４回鳥海山ブルーラインヒルクライムfrom日本海～

今年からクライムジャパンシリーズの加盟大会として第４回鳥海山ブルーラインヒルクライムfrom日本海が６月16日、17日の２日間にかけて開催されました。

２日目に行われた平均勾配7.5％、距離19.7ｋｍのにかほステージでは、171人のヒルクライマーたちが鳥海山５合目鉾立をめざし、一心不乱にペダルを回し続けました。

沿道には応援に駆けつけた多くのギャラリーもいて、ヒルクライマーたちに暖かい声援を送り大会を盛り上げていました。

スタート直後の先頭集団。ライバルは自分自身

七夕はお抹茶でおもてなし

～ 茶道裏千家一会会・七夕茶会 ～

かわいい着物でお抹茶をいただきました（写真・左上）

７月２日、茶道裏千家一会会の主催による七夕茶会がスマイルで行われ、市内外から多くの方が参加しました。

七夕茶会は、平成４年に同施設スマイルが完成した際、竣工式で行われたのがきっかけで、以来26年にわたり、開催しています。立礼席で行われたお茶会は、お点前が披露されるなか、準備した席が何度も満席になるほど盛会で、お運びや水屋の皆さんも大忙しの様子でした。

夏本番を控え梅雨明けを待つこの時期、涼を感じられるようにと“瀧”のお軸が掛けられるなど小さな心遣いに笑顔でお抹茶をいただく参加者の姿が見られました。

海水浴はキレイな砂浜で！

～ ホンダ・ビーチクリーンキャラバン ～

４輪バギーも出動！（写真・右上）

７月５日、日本の快水浴場百選の象潟海水浴場で本田技研工業㈱の技術協力のもと５年連続５回目となる「ホンダ・ビーチクリーンキャラバン」が開催されました。

前日まで心配された雨も無事あがり、砂浜に集まった約300人のボランティアの皆さん。自分たちの手で砂浜をキレイにして快く海水浴シーズンを迎えようと、ごみ袋を片手に黙々と作業にあたりました。後半、応援に駆けつけてくれた象潟小学校５年生児童。友達とごみ拾いに励む佐々木樂人君は「きれいな砂浜にして早く海水浴に来たいです」と海開きが待ちきれない様子でした。

「七夕」に夫婦の絆を再確認。「さらなる交流と友情を」

～松島町・にかほ市夫婦町締結30周年記念事業～

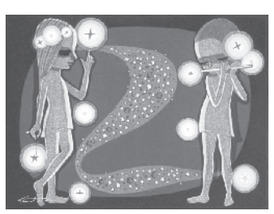
７月７日、松島町とにかほ市の夫婦町締結30周年記念植樹・式典・祝賀会が、道の駅象潟ねむの丘を会場に開催され、松島町長やにかほ市長をはじめ、両市町の議員や関係者など118人が出席しました。

ねむの丘芝生広場で行われた記念植樹では、両市町に縁のある『おくのほそ道』を著した俳聖・松尾芭蕉の俳句に詠まれ、また、本市の「市の花」に制定している「ねむの花」の若木が植えられ、この木の成長とともに交流が更に深まることが祈念されました。

ねむの丘「見晴しの間」に場所を移して行なわれた記念式典では、両市町長より地理的および歴史的背景によって固く結ばれている旨や、めでたく真珠婚の節目を迎えたことなどが語られ、最後に50周年の金婚式に向け、より一層の交流を重ねる決意が語られました。続いて、記念品として木版画家・池田修三先生の作品「星会い　７月」が披露され、両市町がそれぞれ同じ版画を持ち合い、夫婦町30周年の絆を再確認することが約束されました。

図らずも本日は、五節句の一つでもある「七夕」。

織姫と彦星、そして紅蓮尼と小太郎を連想させる作品が今後の両市町の絆を見守っていきます。



記念品「星会い　７月」